



# 埋文だより

第61号

平成25年6月14日発行



5号住居跡から出土した土器



松山考古館の土器(左)比較

## 遠方からもたらされた 弥生時代の土器

高吉B遺跡(志布志市志布志町)では、弥生時代中期(約2,000年前)の竪穴住居跡が、7軒見つかりました。その中の1軒の床面近くから、口の部分にくぼんだ線を施した、『凹線文土器』と呼ばれる壺形土器が出土しました。

この土器は、現在の愛媛県の中予地方で当時作られた土器に大変よく似ており、両者を比較しても見分けがつかないほどのものであることがわかりました。

弥生時代の対馬半島と四国地方との交流を知る手掛かりとなる、貴重な発見となりました。

### 目次

- ・ 遠方からもたらされた弥生時代の土器 ..... 1
- ・ 平成24年度かごしまの遺跡情報 ..... 2, 3
- ・ 本物で学ぼう! 「まいぶんキット貸出事業」 ほか ... 4
- ・ 気仙沼便り～東日本大震災復興調査支援員から～ ... 5
- ・ 平成25年度発掘調査予定遺跡位置図 ..... 6

# 平成24年度 かごしまの遺跡情報

## 縄文時代の埋められた土器

～天神段遺跡(大崎町)～

縄文時代早期中頃(約8,500年前)の手向山式土器が土坑に埋められた状態で見つかりました。つぶれていましたが、復元するとほぼ完全な形になりました。



復元した土器



検出状況

今後、埋められた土器の使い方を解明していく予定です。他にも、昨年9月に新聞報道等でも話題となった縄文時代前期(約5,000年前)の西日本最古の石剣をはじめ、旧石器時代から中世にかけての多数の貴重な遺構・遺物が発見されました。

## 特異な形の土器出土

～山口遺跡(薩摩川内市都町)～

縄文時代早期後葉(約7,450年前)の塞ノ神式土器の内、口縁部が「く」の字に屈曲する珍しいタイプが、まとめて出土しました(写真)。塞ノ神式土器は、口縁部が外側に張り出すタイプが一般的です(写真)。

塞ノ神式土器の周囲には、石鏃等の石器が多数見つかり、落し穴や集石、土坑、石鏃を作った跡もたくさん検出されました。

落し穴や石鏃等で狩りをする人々が使った土器だと考えられます。



塞ノ神式土器

## 生活用土器一式が残された

～荒園遺跡(大崎町)～

遺跡の東端で発見された古墳時代(約1,500年前)の住居跡から、当時の人々が煮炊きや貯え、盛り付け等に使ったと思われる土器がたくさん出土しました。

このように昔の人も用途に合わせた形の土器を作っていたことがわかりました。

一方で、大事な生活用土器一式を残したまま住まいを離れてしまっています。その理由は何なのか、禍にでもあったのでしょうか。



土器集中の1号住居跡

## 縄文時代の集落発見

～田原迫ノ上遺跡(鹿屋市串良町)～

縄文時代早期(約8,000年前)の5軒の竪穴住居跡が、半円状に並ぶようにまとまって発見されました。

1軒の規模は、1辺が2.5～4.0m、いずれも方形のもので、また、竪穴住居跡の西側には、連穴土坑や土坑なども見つかっています。これらの遺構群は当時のムラのようなすがわかる貴重な発見となりました。

今後の調査区域に住居跡の発見が続くことが想定でき、注目されます。



半円形状に並んだ竪穴住居跡

## 墨書土器が多数出土

～川上城跡(鹿兒島市)～

中世の城である川上城。築城以前に使われた、古代の土師器が数多く発見されました。その中に、『墨書土器』と呼ばれる墨で様々な文字が書かれたものも多く出土しました。「吉主」や「木」など持ち主の願いや名前の一部と考えられるものや、地名にある「下田」や「酒坏」などユニークなものもありました。これらの墨書土器から、かつて文字を理解できる人たちや地元の有力者が居住していた可能性があります。



「酒坏」の墨書土器

## 研究紀要「縄文の森から」第6号刊行

当センターでは、調査研究成果のひとつとして研究紀要を発行しています。今まで蓄積してきたデータをもとに、わかってきたこと、遺構や遺物からの一考察、実験の成果、集成や埋蔵文化財を活用した授業などいろいろな視点から研究に取り組んでいます。

今回は「縄文の森から」(第6号)を刊行するとともに、多くの方に見ていただくために埋蔵文化財センターのホームページ(6頁参照)上でも公開しています。ぜひ、一度ご覧ください。



2013年5月 発行

## 上野原縄文の森第36回企画展開催中

巨大噴火と共に生きた人々～桜島大正噴火100周年記念～

平成26年1月12日、桜島が大正時代に大噴火をしてからちょうど100周年を迎えます。大惨事となった噴火ですが、私たちが暮らすこの大地は、多くの噴出物によって形成され、発掘調査によって、その痕跡が明らかになってきています。今回の展示では、巨大噴火と共に生きた人々の暮らしを紹介いたします。

【期間】平成25年4月19日(金)～9月1日(日)

【場所】上野原縄文の森展示館

【お問合せ】0995 - 48 - 5701



大正噴火100周年記念



# 本物で学ぼう！～きてみてさわって埋文センター～



## 「まいぶんキット貸出事業」

普通の授業や郷土教育への取組を支援するため、教室の中で本物の土器や石器などにふれることができる、実物資料の貸出事業を実施しています。本物から得られる驚きや感動を学びの場に生かして、授業や総合的な活動をより豊かにする一助としてご活用ください。平成24年度は、6校（449人）の利用がありました。今年度は、すでに多くの学校から利用希望があります。（5月末現在 18校）

対象：貸し出しを希望する学校

貸出教材：土器（縄文時代、弥生時代）、石器（石斧、石鏃）  
「『縄文』を描いてみよう」「薩摩焼の歴史」など



土器の模様を観察しよう

## 歴史を肌で感じる研修や職場体験

教職員だけでなく、中学生や高校生、大学生まで研修や職場体験学習を通して歴史を学ぶことができます。教室から離れ、先人の知恵にふれたり、実際の仕事として報告書作成の一局面に立ち会うことができます。



発掘現場での調査

対象：県内の教職員〔パワーアップ研修7月25日（木）～26日（金）、8月1日（木）～2日（金）フレッシュ研修8月22日（木）～23日（金）〕、職場体験学習、インターンシップ  
県内市町村埋蔵文化財担当職員ほか（専門職員養成講座初級、中級、上級）

## かごしま県民大学連携講座「鹿児島島の遺跡に学ぶ」

私たち鹿児島島の大昔の人々は、どんな暮らしをしていたのでしょうか。これまでの調査をもとに、鹿児島島の先人たちの生活を分かりやすく紹介します。あなたも受講してみませんか。

◎第1回 「縄文アートに挑戦」

8月2日（金） 10：30～12：00

本物の土器や石器にふれながら昔の人々の生活を紹介します。また、夏休みの自由研究のテーマのひとつとして芸術性に迫ります。

対象：小学生（4年生～）と中学生は保護者同伴、一般 24名  
講師：内山伸明（鹿児島県上野原縄文の森 事業課長）

◎第2回 「かごしまの歴史をたどる」

11月30日（土） 13：30～16：00 対象：一般 24名

講師：東 和幸（鹿児島県立埋蔵文化財センター 調査第一係長）

◎第3回 「桜島26,000年の記録」

1月12日（日） 10：30～12：00 対象：一般 24名

講師：内山伸明（鹿児島県上野原縄文の森 事業課長）



昨年の第2回講座

会場：かごしま県民交流センター（3回とも）申込み先：鹿児島県上野原縄文の森 電話 0995-48-5701

## 気仙沼便り～東日本大震災復興調査支援員から～

私は、今年の1月から東日本大震災の復興支援のため、宮城県気仙沼市教育委員会で発掘調査などを実施しています。

このような支援は、平成24年4月から東北の被災3県（岩手県、宮城県、福島県）で実施されていますが、今年の4月からは全国から、さらに多くの職員が派遣されています。派遣職員は全国の都道府県や市町村、企業の職員、埋蔵文化財関係の仕事で退職された方など様々です。

気仙沼市では、私を含めて4名の職員を増員し、宮城県教育委員会に全国各地から支援に来ている埋蔵文化財の職員の応援もいただきながら埋蔵文化財の発掘調査を行っています。

私の主な業務は、震災で住宅を失った方が住宅を再建しようとする場所が遺跡であった時に行う発掘調査です。その他、防災集団移転（高台移転）の場所が遺跡であった時に行う発掘調査の支援もしています。震災復興支援の発掘調査では、地元の職員や全国から集まった職員と知り合え、お互いの経験や知識、現在の発掘調査現場について話し合いを行うことで、調査方法などの勉強にもなり、東北地方の歴史・文化・自然などを知ることもできる貴重な体験です。

発掘調査は、気仙沼市在住の方と作業を行っています。中には勤め先が被災して失業した方や仮設住宅に暮らす方もいらっしゃいます。皆さん大変な被害からの復興を願いながら作業をしていただいています。さらに、私たち応援に来ている職員の健康や生活も気遣ってください。東北の方々の辛抱強く、温かい心に触れるたびにこちらが励まされています。

厳冬の1月に気仙沼市に来てから5カ月が経ちます。雪が積もり、土も凍る気温の中での発掘調査からのスタートでした。東北の冬は厳し

く、初めての経験も多かったです。4月にはフキノトウが芽吹いて春の訪れを知らせてくれ、5月の連休には桜が満開となりました。



積雪中での発掘調査

大きな地震と巨大津波が襲ってから2年余りが過ぎました。被災地に広がっていたガレキのほとんどが撤去されましたが、大変な被害を受けた地域では建物などの基礎がそのまま残っていて、まだまだ多くの被災された方が仮設住宅での生活を送り、港や鉄道、道路、工場なども完全な復旧を果たしていません。



発掘調査現場周辺の津波被害の状況

漁業で有名な気仙沼の町が活気を取り戻すには、もう少し時間が必要なようです。これから暑い夏、紅葉の秋、寒い冬と東北の季節や自然を感じながら、一日でも早い復興を願って気仙沼での仕事に励みたいと思います。

（派遣職員 西園 勝彦）

※県立埋蔵文化財センターでは、東日本大震災復興調査支援に2名の専門職員を派遣しています。



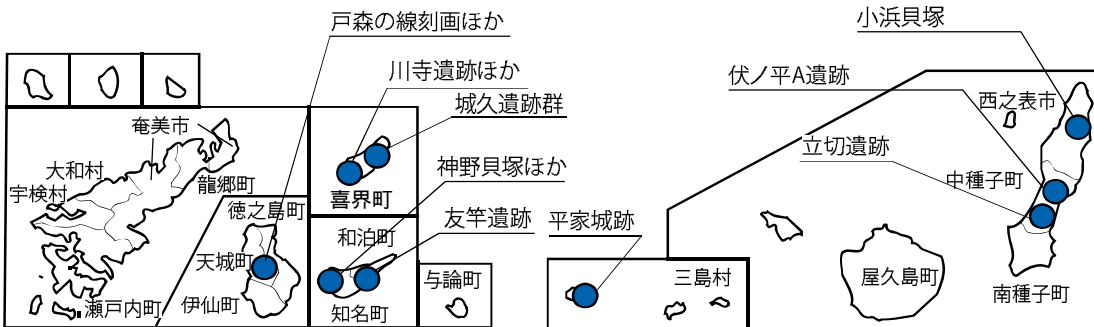
のぞいてみよう 発掘現場！

# 平成25年度 発掘調査予定遺跡位置図

埋蔵文化財センターでは、県内各地で発掘調査を行っており、その様子を見学することができます。見学を希望される場合は、県立埋蔵文化財センター又は公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター、市町村教育委員会にお問い合わせください。



発掘調査の様子(下原遺跡)



当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。

なお、当センターのホームページは、鹿児島県教育委員会 (<http://www.pref.kagoshima.jp/kyoiku>) または、上野原縄文の森 (<http://www.jomon-no-mori.jp>) からお入りください。

検索キーワード

**埋文だより** 第61号

発行日 平成25年6月14日  
 編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター  
 〒899-4318 鹿児島県霧島市  
 国分上野原縄文の森2番1号  
 TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820  
 URL: <http://www.jomon-no-mori.jp>  
 E-mail: [maibun@jomon-no-mori.jp](mailto:maibun@jomon-no-mori.jp)